

# ファンタジーNTR

異世界ファンタジーものの  
NTRシチュエーションを  
考えるシリーズです。

今回は旅立ちの村に  
残してきた「勇者の恋人」の  
村娘リタの話です。

※【注意】

この先、この女の子が**すけべ親父に寝取られます。**  
地味顔だけどオツパイが大きくてえっちな身体の  
勇者の恋人が、「生活の援助」を理由に性欲が強い  
村長の愛人にされてしまいます。

そんなNTRが許せる人だけ閲覧してください。

今回もバスト100cm越え♡

私：マルクの事、待ってるからね



リタ…

あマルク…おはよう！  
これから王都に出発なの？

うん、まず王様に会うんだって  
それから仲間と一緒に魔王を  
討伐する為の旅に出るらしいよ

あははっー王様に謁見なんて  
もうすっかり勇者さまだね！

やめてよーその「ん」を消えろん  
す「ん」は「ん」で…「ん」が「ん」  
胃がキリキリするんだからっ！

えっと…それじゃあ  
行ってきます。リタ。

うん、行ってらっしゃい。  
頑張ってねマルク……

それもそうなんだけど…無茶は  
絶対しないでね？魔王を倒すこと  
よりマルクの命が大事なんだから

わかってるー魔王は必ず  
倒すからーそれで、リタの  
ための村に帰ってほしい

うん！それもわかってる！  
必ず生きて帰ってくるから！



だって、そうしないと大好きなリタと結婚できないから！絶対死ねないよ！

も、もうーこんな時にまでホントバカなんだからっ！

でも、嬉しい♡私…マルクの事ずっとずっと待ってるから…♡



この世界で強い権威を持つ教会に、ある日、女神から神託が下された。これによりただの村人だった俺は「勇者さま」なる存在にされ……、人類の脅威「魔王」と戦わなければならなくなった。

正直、迷惑以外のなにものでもなかったが、それこそ断るといふ選択肢は俺にはなかったのだ。なぜなら、「勇者が魔王を倒さなければ、人類が減びる」というのはこの世界の変えられないルールなのだ。

俺には故郷に残してきた恋人がいる。名前は「リタ」  
顔は決して美人ではないが（それこそ、この旅で様々な  
美人、美少女な女性達に出会い、勇者という立場から  
求婚されてきたが、リタは彼女たちに比べれば普通…  
というか地味な感じの村娘Aであることは間違いない）  
俺は彼女が好きだった。

だから、俺は王都に向かう前日に彼女に告白した。  
「魔王を倒したら、この村に帰ってくるから、その時  
俺と結婚して夫婦になってほしい」と

リタは少し怒ったような、恥ずかしいような表情を  
した後、一言「…はい」とだけ言ったのだった。

それからおよそ四年の歳月が流れる。戦いは激しくなり遠い故郷に帰つて愛する人に会う時間を作ることなど当然ながらできなかつた。俺は月に一度、手紙を送り彼女に近況を報告した。彼女の方からも「愛している」など短いながらも返事が来ていた。（彼女は普通の村娘なので、文字などは書けない。返事は俺の手紙を届けてくれた兵士からの伝聞だったので、返事は短いものが多かつた。）

とはいえ、長い間恋人と離れていてまったく心が揺らかなかつたわけではない。勇者としての肩書きだけで寄つてきた女性とは違い、信頼関係が恋愛感情にまで発展した女性たちも少なからずいた。

特にそのうちの三人



王国の第二王女



教会の聖女



森の剣聖



男ならだれもが手に入れたいと思う絶世の美女、美少女な  
この二人に求婚されたときは……さすがに俺の心もぞわぞわ  
しなかつたといえは嘘になる。ただの村人では手に入らない  
**勇者の俺だからこそ手に入ってきたかもしれない女性たち……。**



頑張ってるね…マルク  
私、待ってるから…

それでも…、俺が心に誓い、将来を共に過したらいと  
思ったのは彼女「リタ」だけなのだ。だからこそ…  
俺は早く魔王を倒さなければならぬと思ったのだ

俺は彼女たちの求婚を断り、ひたすら魔王を倒すためだけに、この身を捧げた



その甲斐あつてか、4年と半年経った頃：

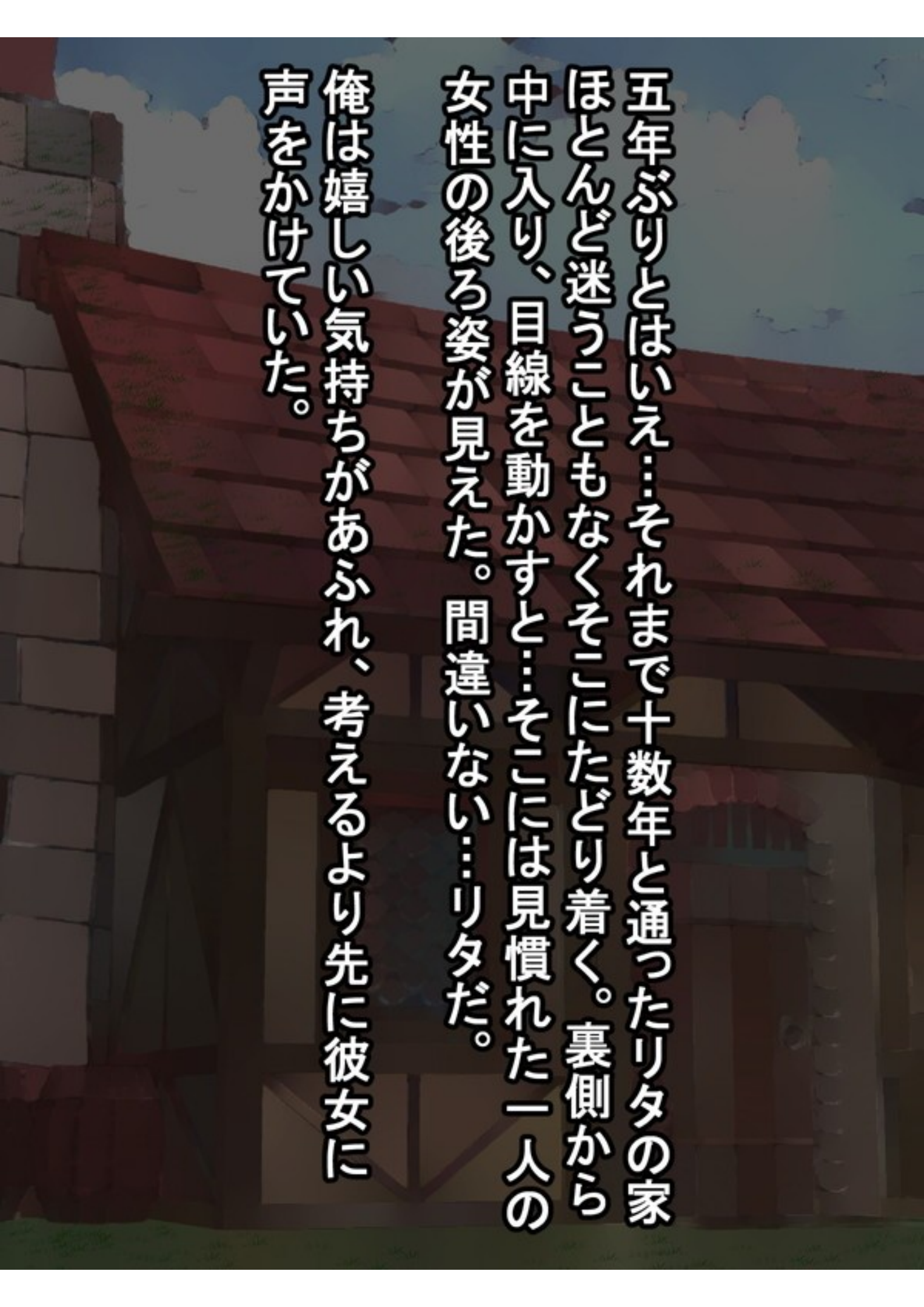
俺はついに「焰絶の魔王」を倒すことに成功した。

魔王討伐後、王都では凱旋パレードや式典などで色々手間を取られたものの、それまでの俺の強い希望で通例よりも早く勇者の職から解放された。

そしてさらに、半月ほどかけて俺はついに生まれ故郷に帰ることができた。旅立ってからおよそ5年の歳月が流れていたが、村はあまり変わっていないようだった。

村に着くとやはりというか、村人たちが待ち構えており、五年ぶりに会う懐かしい顔ぶれが俺を迎えてくれた。しかし、本来なら真っ先にここにいるであろうリタの姿だけがそこにはなかった。不思議に思う俺そこにこの村の村長が現れ、にたりと笑いながら「よくぞ、帰られましたな勇者様、ささ、どうぞぞ。粗末ながら一つ宴席を設けましたので」といった。

俺はそれを一旦辞した。なによりもまず、恋人のリタに会いたいと思ったからだ。俺はリタの実家に向かった。



五年ぶりとはいえ……それまで十数年と通ったリタの家  
ほとんど迷うこともなくそこにたどり着く。裏側から  
中に入り、視線を動かすと……そこには見慣れた一人の  
女性の後ろ姿が見えた。間違いない……リタだ。

俺は嬉しい気持ちがあふれ、考えるより先に彼女に  
声をかけていた。



久しぶりに再会した恋人は少し、いやかなり綺麗になっ  
ていた。薄く化粧をし、どこか大人の女性の色香を感  
じる。俺は幼馴染の変化にときどきと鼓動を早め…

ま、マルク…？  
そっ、そっか…  
帰ってたんだ？

うん、たまたま…ま…？



次の瞬間、完全に思考が止まった



服の上からでもわかるほど…リタのお腹は大きくなっていった。  
重そうだし、あるいはかばつぷり…さし…手添える彼女…

…俺の恋人は  
妊娠していた

ぽてっ♡





色々聞きたら「」とはあった。でも頭がぐちゃぐちゃ  
すぎて。。。そのどれもが意味のある言葉にならない。

そんな苦しみの中。。。辛うじてひねり出したのは  
何とも情けない一言だった。



誰の…子供なんだ？

……

私ね、今村長のお妻さんやってるの。  
うち、貧乏でお母さんも病気だったから  
その援助してもらった代わりにな…ね？

……**村長の子供だよ**

……実は、このお腹の子を  
含めないで、いままで**三人**  
**村長の子供を出産してるの…**



な…なん…

なんで？そんなこと聞かないでよ

全部生活の為生きていく為だよ

そりゃ最初の頃は嫌だったけど…  
慣れちゃえばなんでもないわ。何なら  
今はそこそこ幸せにやれてるもの

マルクを…恋人を裏切ったのは  
さすがに後悔してるけど…もっと  
早くに別れておくべきだったって



り、り、り……俺は……！

ね、マルク？どうして今さら帰って来たの？  
王都には、私なんかよりもよっぽど綺麗で  
マルクの事を思ってくれる人もいたでしょう？

こんな村娘のことなんか忘れちゃえば  
よかったのに。ううん、忘れてほしかった



あああ…

…ごめんね？先に裏切っついて  
こんな勝手な事ばかり言っ

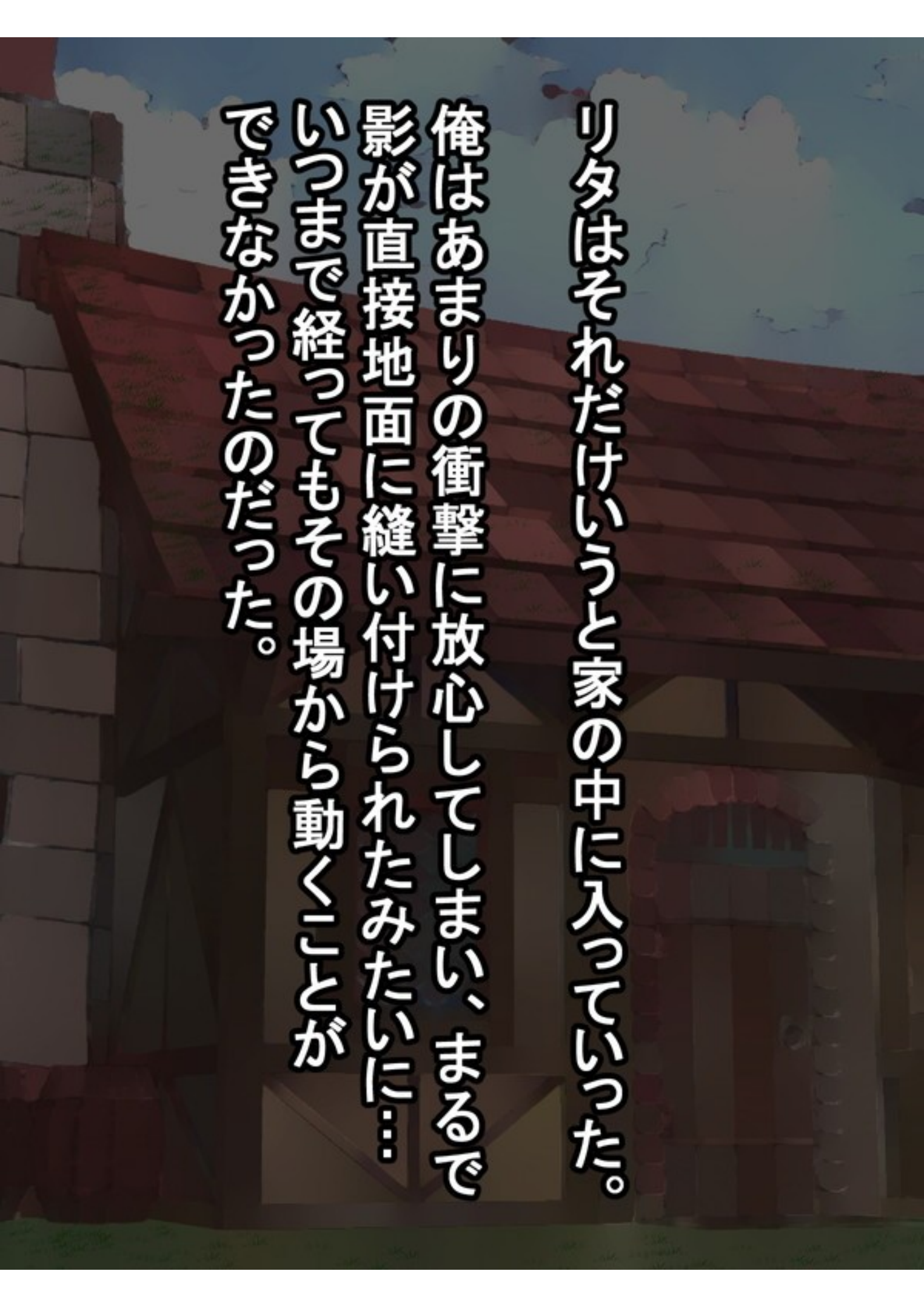
やだなん、私、性格悪かったみたい…

とりあえず…もう「」には来ない  
ほうがいいよ…？マルクが…うん  
**勇者様**が嫌な思いをするだけだもん

恋人がいない間に他の男の種で孕む  
最低な女は勇者の物語にふさわしくない  
だから最初から存在しなかつたんだよ

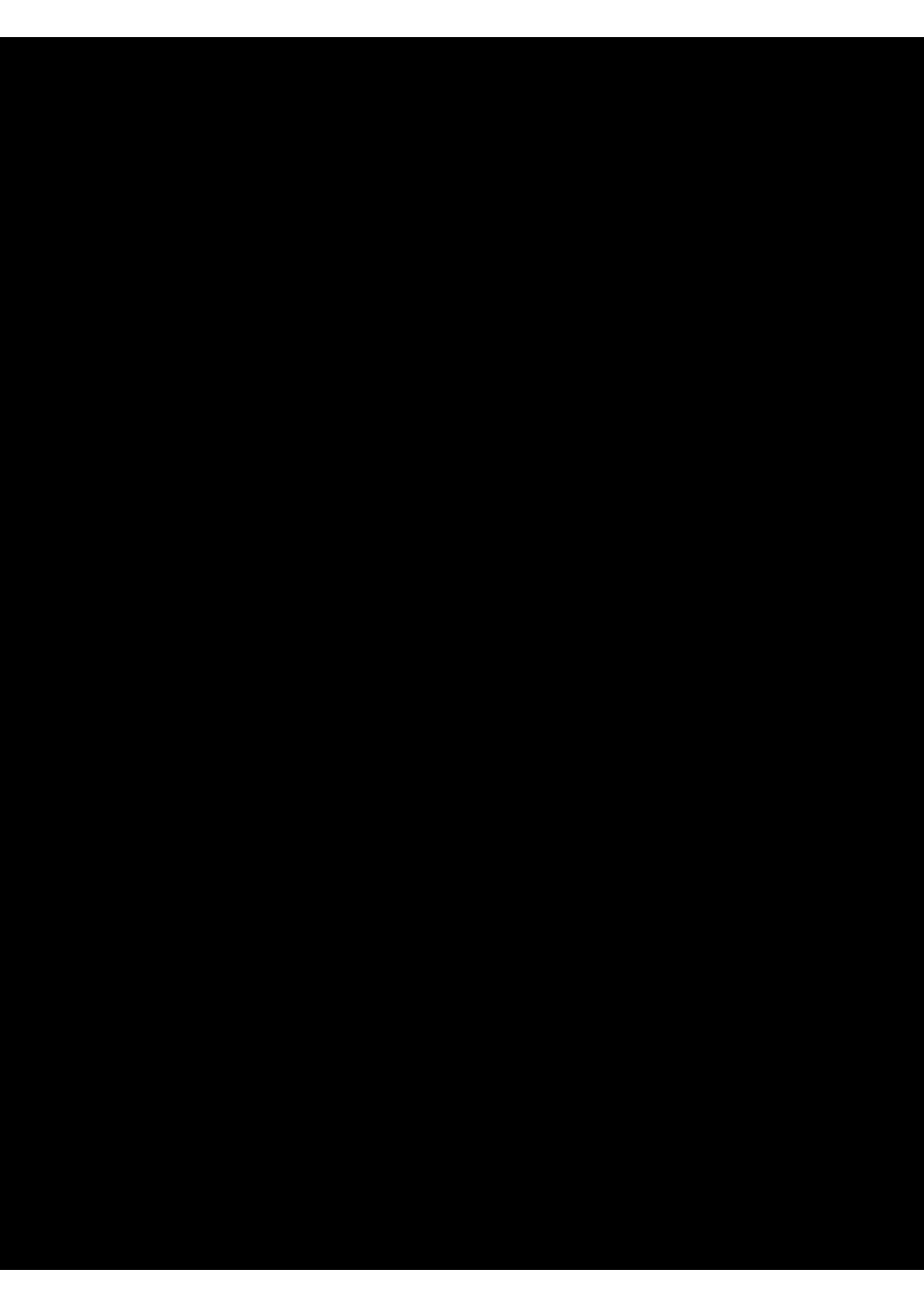






リタはそれだけという家の中に入っただけだった。

俺はあまりの衝撃に安心してしまい、まるで影が直接地面に縫い付けられたみたいにな……いつまで経ってもその場から動くことができなかったのだった。

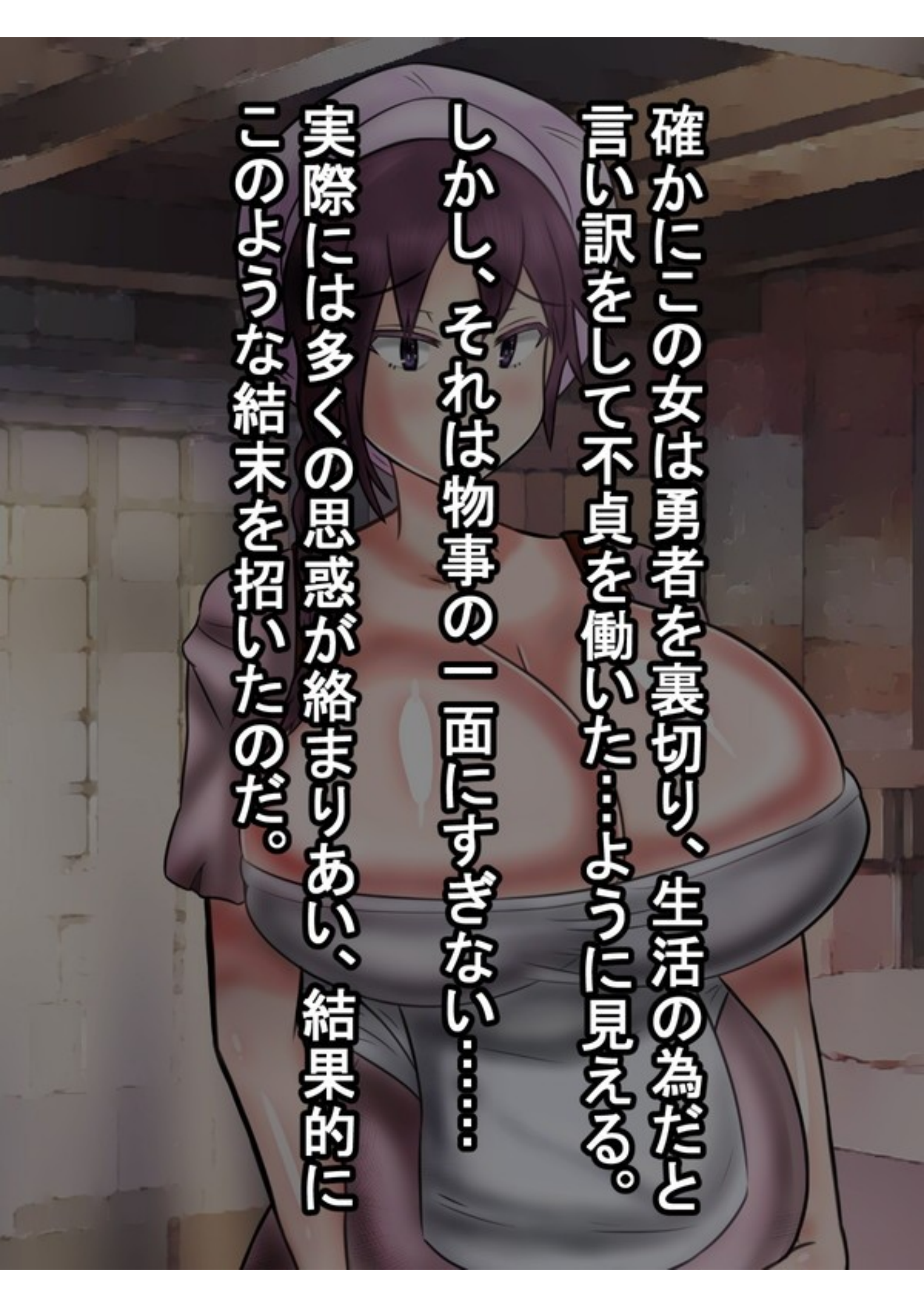


「めんね…マルク…」

「めんね…めんねなむら…」

勇者が外で心神喪失している頃……  
家屋の中では女の懺悔が始まっていた





確かにこの女は勇者を裏切り、生活の為だと  
言い訳をして不貞を働いた…ように見える。

しかし、それは物事の一面にすぎない……

実際には多くの思惑が絡まりあい、結果的に  
このような結末を招いたのだ。

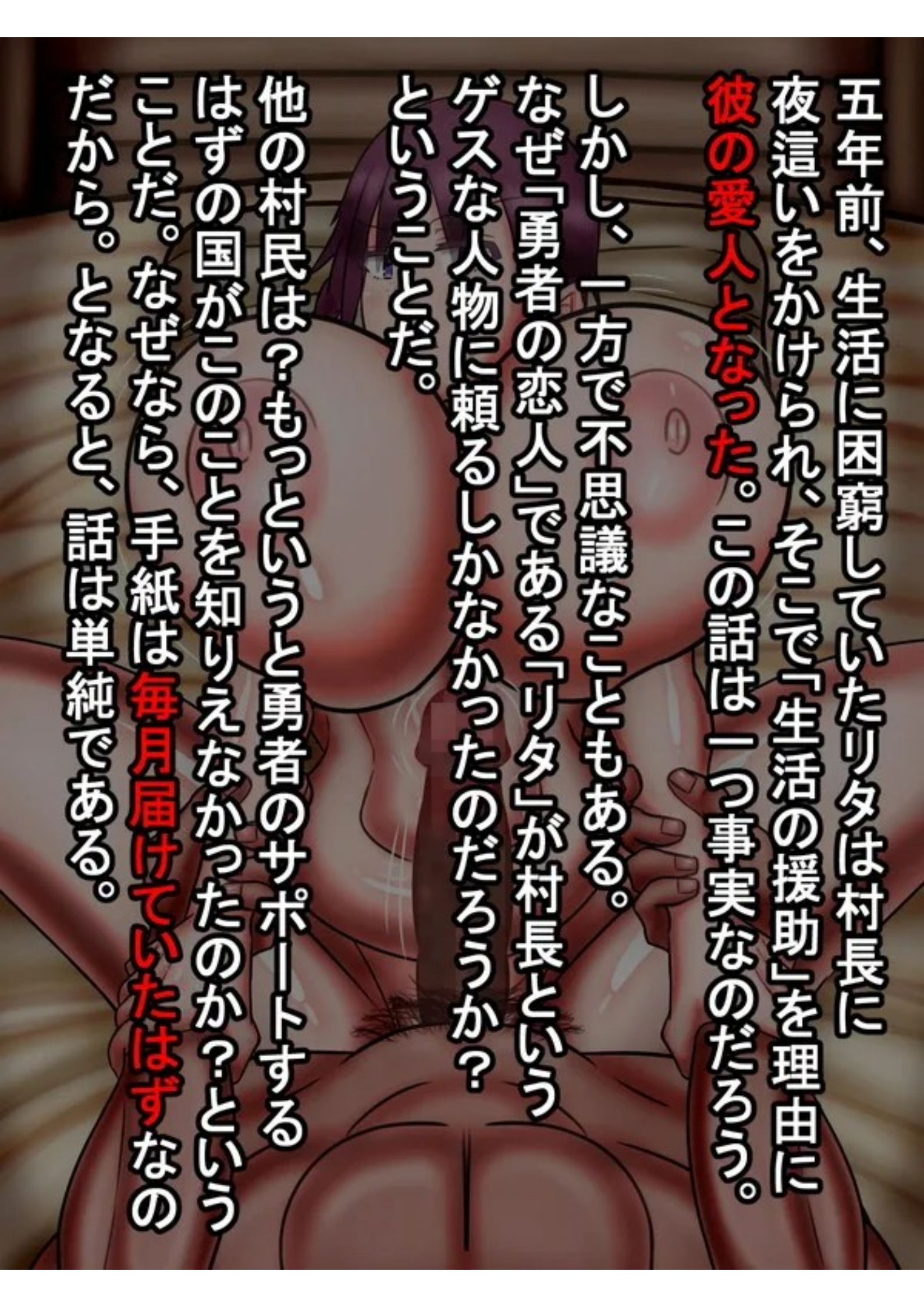
「J」の卑怯者……!

地獄に落ちるっ!

ほほっ、まったく生意気な口を聞きよる  
だがすぐにワジに従順な雌にしてやるぞ

ぐふふーみてみる「J」のワジの**デカマラ**を！  
いじつてたっぷりと可愛がってやるからなっ!





五年前、生活に困窮していたリタは村長に夜這いをかけられ、そこで「生活の援助」を理由に**彼の愛人**となった。この話は一つ事実なのだろう。

しかし、一方で不思議なこともある。

なぜ「勇者の恋人」である「リタ」が村長というゲスな人物に頼るしかなかったのだろうか？  
ということだ。

他の村民は？もっとうと勇者のサポートするはずの国がこのことを知りえなかったのか？ということだ。なぜなら、手紙は**毎月届けていたはず**なのだから。となると、話は単純である。

ま、マルクウ…!!

おん♡おん♡

たたしゆけてえ…!!

諦める！勇者は王都で  
他の美しい女とよろしく  
やってるさ！お前のこと  
なんかとっくに忘れてな！

どちゅ♡

どちゅ♡

だから諦めてお前はワシの  
女になれ！そして、丈夫な  
子供をたくさん産むんだっ！

犯人は「**国**」であった。

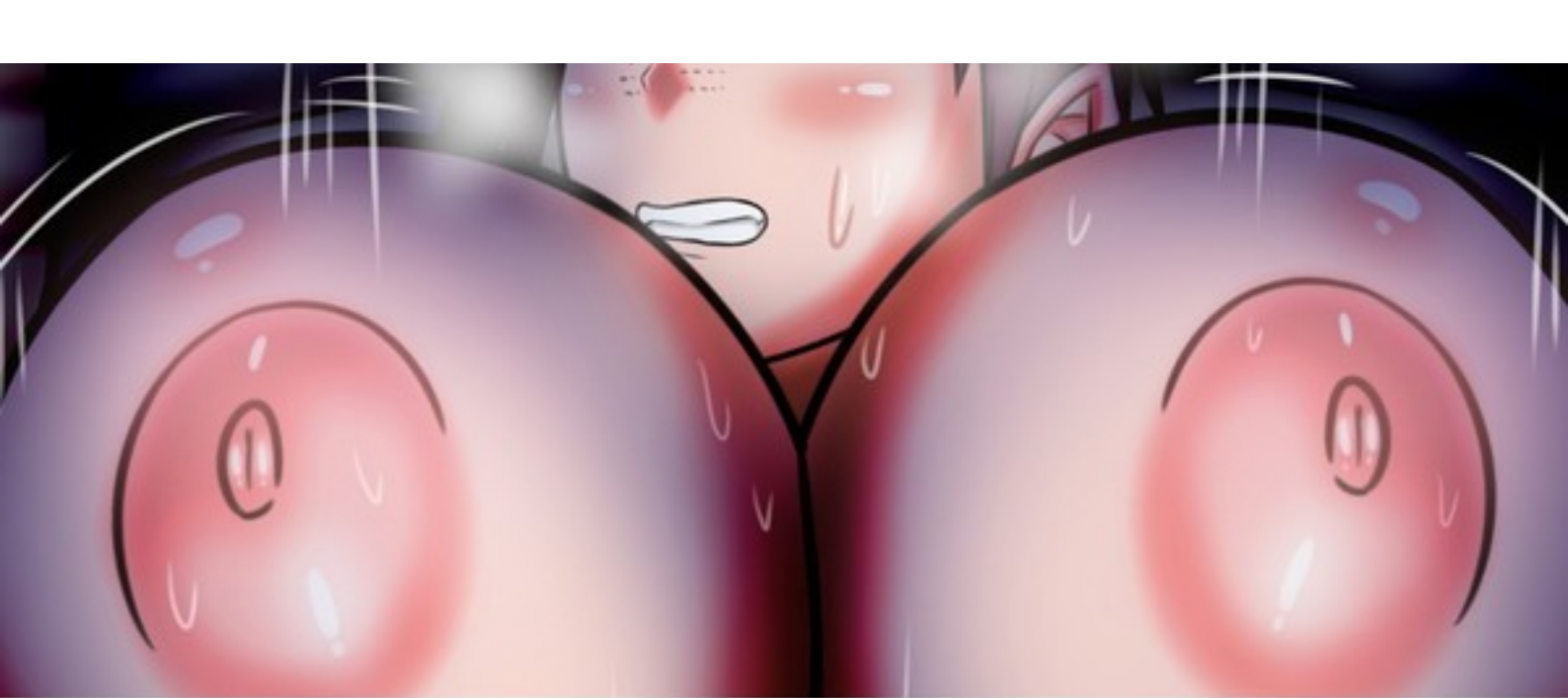
「勇者の恋人」が、ただの村娘であることを良しとしない王国が一人のクズの欲望を利用した。

すなわち、彼女を孤立無援にし、クズに頼らざるを得ない状況を作り出した。その結果、彼女の尊厳は貶められ、「勇者の恋人」「将来の勇者の妻の座」から彼女を引きずり下ろされたのだ。




こうして**村娘リタ**は、「勇者の恋人」から  
「すげべ親父の妻」にされてしまったのだった

勇者はまだそれを知らない…



ファンボックスやっています(\*´▽`\*)  
今回の村娘リタのえちえち差分は、後日  
支援者様限定で公開すると思ひマスので  
気に入った人はフォローお願いします！



あと、今年に入ってからTwitterも結構稼働  
させています。こちらにも気になる方は  
フォロー&いいね&RTしていただけると  
あららっくが喜ぶと思ひマス(^ω^)